

# とろまゐ

根室市歴史と自然  
の資料館たより

2024.7 No.39



清隆寺本堂

2023年3月15日付で国の文化審議会より、登録有形文化財に登録するよう答申がありました。この建造物は、1925（大正14）年に建築され、設計は気仙大工の名工である花輪喜久蔵、彫刻は石井寅正によるものです。

- |                                      |      |
|--------------------------------------|------|
| 根室市温根沼東岸の遺跡踏査・・・・・・・・・・・・・・・・猪熊樹人    | (1)  |
| 全国のラッコファンが訪れるところ・・・・・・・・・・・・・・・・外山雅大 | (7)  |
| 令和5年度の受入資料、おもな普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・   | (10) |

# 根室市温根沼東岸の遺跡踏査

猪熊 樹人

(根室市歴史と自然の資料館)

## はじめに

根室市歴史と自然の資料館では、2023 年度に根室市温根沼の東岸で踏査を行い、竪穴群を発見したことにより、新たに埋蔵文化財包蔵地として登載した。ここでは、温根沼の周辺の遺跡概要とともに、新たに周知された埋蔵文化財についてまとめる。

## 1. 根室市内の遺跡分布調査

根室市内の埋蔵文化財については、明治時代の初期から T.W. ブラキストンやジョン・ミルンによる弁天島貝塚竪穴群（包蔵地番号 N-01-3）に関する記録や 1889 年の H. グリムによるノッカマップ川東岸竪穴群（N-01-55）比定地での発掘調査（大沼，小野 1999）など、外国人研究者によって着目され、調査が行われてきた。

昭和初期頃、旧根室町内では清野謙次などの研究者による発掘を契機に考古資料の収集家が現れた。このことは、ブラキストンやミルンが着目した弁天島が、根室港の修築に伴う石採りにより島の約半分が消失し、この際にオホーツク文化の遺物が大量に出土したことが背景としてある。

現在の根室市温根沼に居住していた伊藤初太郎（1883-1976）はそうした収集とは一線を画し、根室半島周辺のチャシ跡や竪穴群の分布調査を行っている（伊藤 1935）。

こうした成果をもとに、戦後、根室在住の研究者であった北構保男（1918-2020）による調査や 1962 年からはじまる東京教育大学（現・筑波大学）による発掘調査や測量調査へ引き継がれる（八幡ほか編 1966、岩崎ほか編 1980）。

また、釧路市立博物館や根室市教育委員会といった行政機関による調査の進展もあり（澤ほか編 1984、北地文化研究会編 1974）、2024 年 7 月現在で 314 か所の埋蔵文化財包蔵地が周知されている。

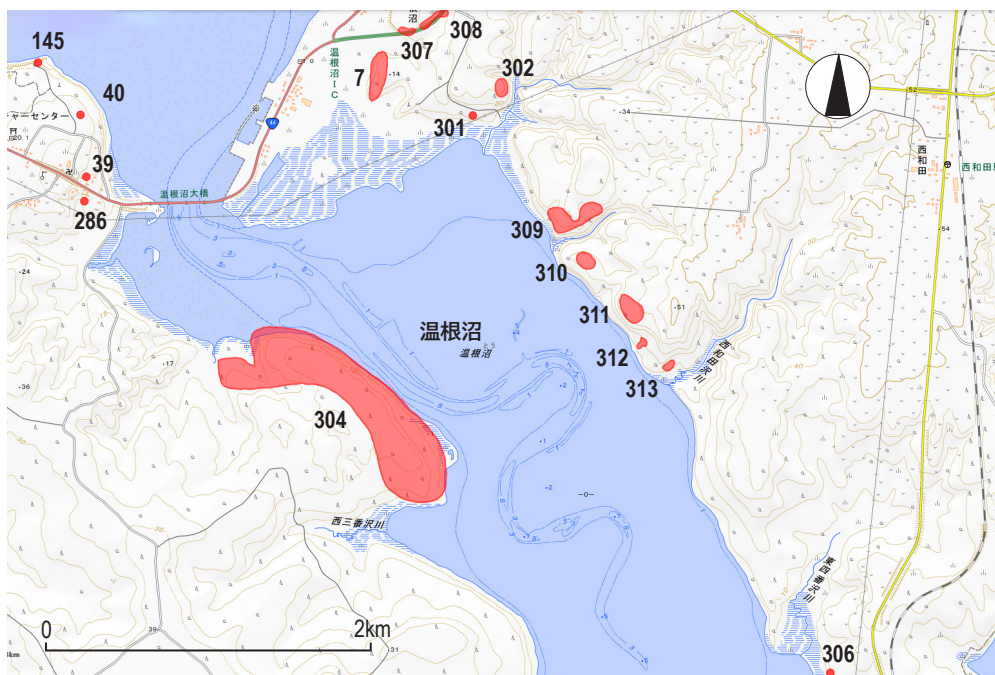
## 2. 温根沼周辺の埋蔵文化財

温根沼は根室半島の基部にあり、周囲約 15km、湖面積 5.51k m<sup>2</sup>で、オホーツク海と接続する海跡湖である。アイヌ語で「大きな沼」を意味する「オン

ネ・トー」に由来する。

温根沼の沿岸では、伊藤初太郎により竖穴群の存在が示されていたものの、現地調査に基づく周知が進んでいなかった。

2006 年から、温根沼東岸の関江谷 1 竖穴群（N-01-7）の詳細分布調査を実施して以降、関江谷 2 竖穴群（N-01-301）、関江谷 3 竖穴群（N-01-302）、温根沼東岸 1 遺跡（N-01-306）、温根沼西岸の温根沼西岸 1 竖穴群（N-01-304）を周知した（図 1）。



7. 関江谷 1 竖穴群 39. 東梅 1 竖穴群 40. 東梅 2 竖穴群 145. 東梅 4 竖穴群 286. 東梅 1 遺跡 301. 関江谷 2 竖穴群 302. 関江谷 3 竖穴群 304. 温根沼西岸 1 竖穴群 306. 温根沼東岸 1 遺跡 307. 温根沼 2 遺跡 308. 温根沼 3 遺跡 309. 温根沼東岸 2 遺跡 310. 温根沼東岸 3 遺跡 311. 温根沼東岸 4 遺跡 312. 温根沼東岸 5 遺跡 313. 温根沼東岸 6 遺跡

図 1 温根沼周辺の遺跡の分布

関江谷 1 竪穴群は 1954 年に北海道大学の大場利夫らによって縄文時代前期の貝塚が調査され、出土した尖底の押型文土器を「温根沼式押型文土器」として設定された遺跡である。オホーツク海岸側における縄文貝塚は少ないため、その位置や内容について把握する目的で詳細分布調査が実施され、大場らの調査トレンチの所在を確認することができた。(新美ほか 2011・2012)。

また、国道 44 号線改良工事に伴う試掘調査により、温根沼 2 遺跡 (N-01-307) と温根沼 3 遺跡 (N-01-308) の所在が明らかになった。ここでは縄文時代早期前葉の礫集中や墓坑、縄文時代前期、後期初頭、続縄文時代前半、トビニタイ文化、擦文文化後期の集落跡に伴う遺構、遺物が確認された(笠原ほか編 2018・2019、猪熊 2019)。

### 温根沼東岸の踏査

踏査は 2023 年 4 月 13 日に実施した。この時期は下草が繁茂しておらず、木々も枯れた状態であり、見通しや表面の地形が捉えやすい。以下、新登載の遺跡の概要をまとめる。

#### a 温根沼東岸 2 遺跡 (309、図 2)

所在地 根室市西和田 875、876、国有林 (1003 林班わ小班)

立地 温根沼東岸の東オンネトウ小沢川右岸の標高 15 ～ 30m

坦面に長軸 3.5m 程度の円形竪穴 2 か所、張り出しを有する竪穴 3 か所がみられた。うち 1 つは張り出しを含めると長軸が 8.5m あり、竪穴内に貝殻の散布が見られた。方形竪穴も 6 か所みられた。これらの竪穴群がある段丘よりも、さらに高位の標高約 30m の緩斜面上に方形竪穴が 14 か所みられた。

時期 張り出しを有する竪穴から縄文晩期～続縄文前半とし、方形竪穴から擦文文化とした。

#### b 温根沼東岸 3 遺跡 (310、図 2)

所在地 根室市西和田国有林 (1003 林班わ小班)

立地 温根沼東岸の東オンネトウ小沢川左岸の標高約 30m

遺構の分布状況 方形竪穴 4 か所がみられた。うち 1 か所は長軸 7.4m。

時期 平面形から擦文文化とした。

#### c 温根沼東岸 4 遺跡 (311、図 3)

所在地 根室市西和田国有林 (1003 林班わ小班)

立地 温根沼東岸の東オンネトウ小沢川と西和田沢川に挟まれた台地の中央付近、標高約 35m の緩斜面

遺構の分布状況 方形竪穴 16 か所がみられた。

時期 平面形から擦文文化とした。

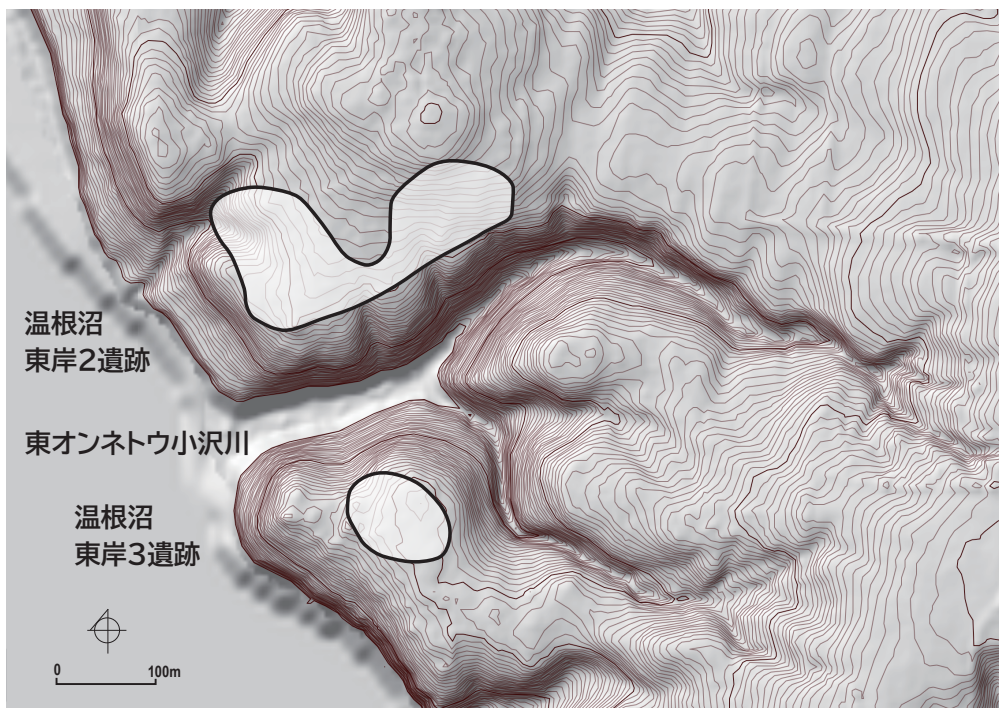


図2 温根沼周辺の遺跡の分布（温根沼 2、3 遺跡）

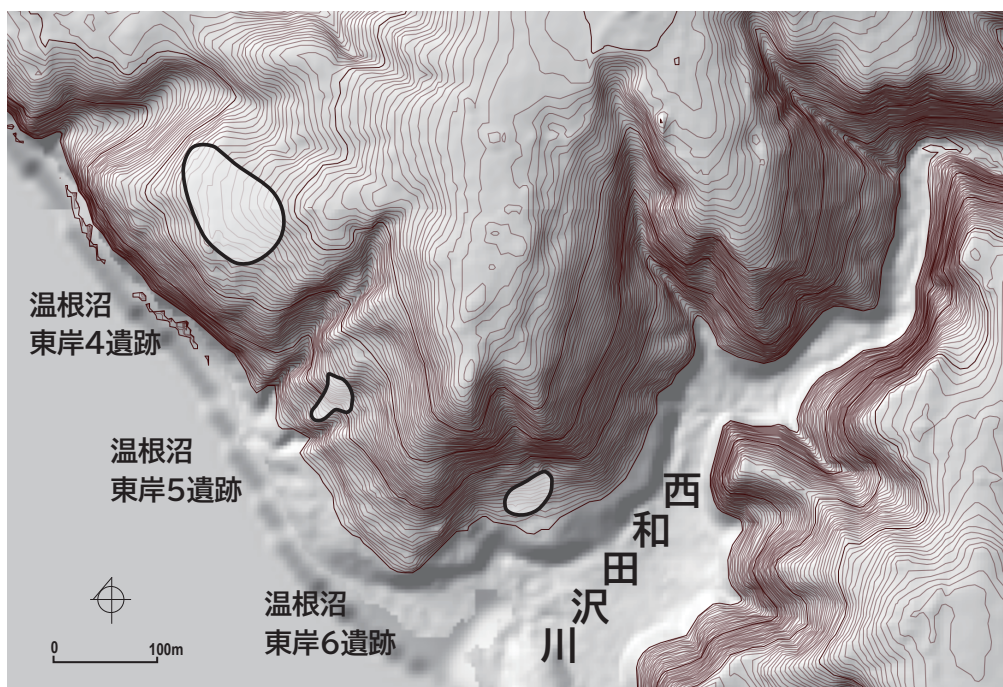


図3 温根沼周辺の遺跡の分布（温根沼 4、5、6 遺跡）

d 温根沼東岸 5 遺跡 (312、図 3)

所在地 根室市西和田国有林

(1003 林班わ小班)

立地 温根沼東岸の東オンネトウ小沢川と西和田沢川に挟まれた台地のやや南東寄りの小谷に挟まれた標高約 15m の緩斜面

遺構の分布状況 方形竪穴 3 か所、直径約 3.4m の円形竪穴が 1 か所みられた。この円形竪穴の湖側は舌状に突き出した台地となっているが、この基部に長さ 4.4m、幅 1.7m の浅い溝状の掘り込みがみられた。溝の湖側はやや高くなっている。小規模な丘先型のチャシ跡の可能性が考えられるが判然とせず、チャシ跡とするには至っていない。現地調査の際、アップル社 iPhone13pro を用い、Abound Labs 社の 3D スキャンアプリ「Metascan」の LiDAR モードで地形を計測した (図 4)。

時期 竪穴の平面形から縄文時代、擦文文化とした。

e 温根沼東岸 6 遺跡 (313、図 3)

所在地 根室市西和田国有林

(1003 林班わ小班)

立地 西和田沢川右岸の標高約 10m

遺構の分布状況 方形竪穴 3 か所がみられた。

時期 平面形から擦文文化とした。

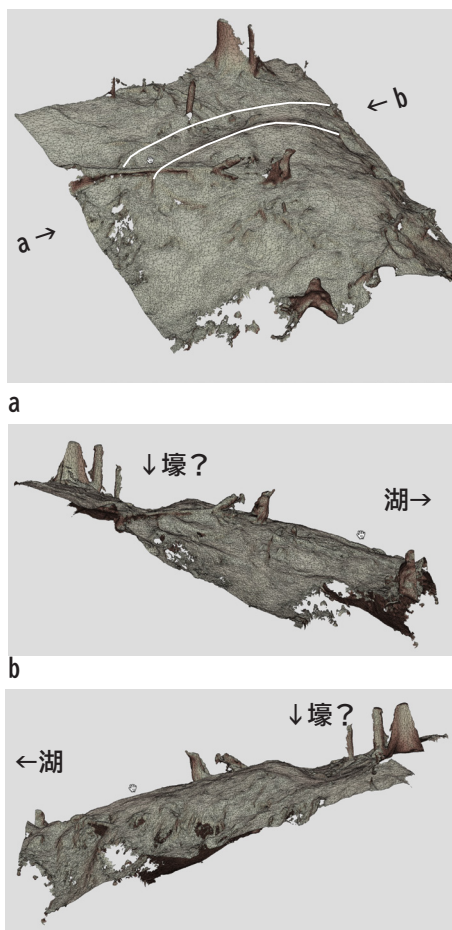


図4 温根沼東岸 5 遺跡の溝状の掘り込み



温根沼東岸 5 遺跡の溝状  
の掘り込み 3D データ

まとめ

2023 年度における温根沼東岸の踏査の結果、新たに 5 か所の埋蔵文化財包蔵地を追加することができた。竪穴

伊藤初太郎の示した図では、今回踏査した範囲に竪穴を示す表現が見当たらないので（図5）、温根沼周辺における人の利用を考える上で一定の成果があったと考える。



## 参考文献

- 6

## 全国のラッコファンが訪れるところ

外山 雅大

(根室市歴史と自然の資料館)

### はじめに

近年、根室をはじめとした北海道東部ではラッコの生息数、分布が拡大し、それを見ようとやってくる『ラッコファン』と呼ばれる人たちが増えています。彼らの目的はもちろん野生のラッコに出会うことなのですが、そんなラッコファンの間で、根室市歴史と自然の資料館は知る人ぞ知る、ラッコの聖地として話題になっているようです。なぜ、当館がラッコの聖地と呼ばれるのか？その理由は当館が、国内唯一のアジアラッコの資料を所蔵しているからです。本稿では当館が誇るラッコ資料を紹介していきます。

### 1. アジアラッコ成獣の剥製と骨格標本

1996年8月に根室市落石沖の定置網にかかり、死亡したオスのラッコ。全長135cm、体重42kg。アジアラッコは水族館にいるアラスカラッコやカリフォルニアラッコよりも大型の亜種で、当館の剥製と骨格標本を見て、その大きさに驚く方も多いです。



写真1. アジアラッコの剥製

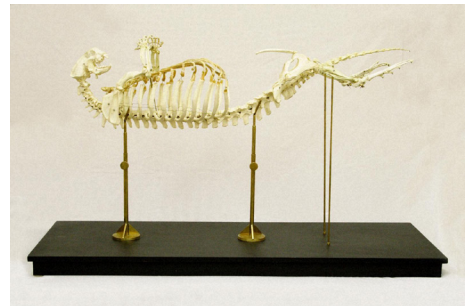


写真2. アジアラッコの全身骨格標本

### 2. アジアラッコの毛皮標本

当館で最も人気のある自然史資料と言っても過言ではないラッコの毛皮標本。2014年1月に根室市落石の三里浜に漂着していた死体から作成したものです。生後一年に満たないオスの幼獣で全長は104.2cmで、解剖を行った

ところ、胃からカニや巻貝の殻が出てきました。同じ北の海に暮らすアザラシたちは体に皮下脂肪をつけることで冷たい海の中で体温を維持しています。一方、ラッコはほとんど皮下脂肪がありません。その代わりに、ふかふかな毛の中に空気の層を作り体温を維持しています。多いところでは1cmに15万本もの毛が生えており、世界で最も毛深い動物です。職員に声をかけていただければ、毛皮標本に触り、ラッコの毛の密度と柔らかさを体感することができます。



写真3. アジアラッコの毛皮標本

### 3. アジアラッコの幼獣の剥製と骨格標本

アジアラッコの幼獣の剥製はラッコファンのみならず、出前授業などで根室の小学生たちにも大人気。2021年7月に親とはぐれ、死んでしまい、根室市落石沖の海に漂っていたのを海鳥の調査チームが発見したものです。全長53.9cm、体重1.6kgの小さな幼獣。解剖の際に胃の中を確認したところ、ミルクのみがでてきたとのことでした。骨格標本は解剖を行った、国立

研究開発法人水産研究・教育機構 服部薫研究員が作成してくださり、当館に寄贈してくれたものです。まるみをおびた頭骨の形が何とも言えないかわいらしさです。このラッコの幼獣の全身骨格は普段は収蔵庫にしまっていますが、事前に連絡いただければ見ていただくことができます。

### おわりに

かつて、毛皮目当てに乱獲され、北海道から一度姿を消してしまったラッコ。そのラッコを再び、北海道で見ることができるようになったのはとても喜ばしいことです。一方でラッコはウニや二枚貝、カニなどの海産物を餌とし、体の大きなオスの成獣では一日に7～8kgの餌を必要とする大食漢で、海産物への影響が懸念されます。道東では、少しずつラッコの個体数が増え、分布が拡大している状況ですが、今のところ、ラッコによる大きな被害は報告されていないようです。現在、根室を中心とした道東地域において京都大学の研究チームなどがラッコの生態研究に取り組んでいます。ラッコたちの生態を知ること、今後、水産資源に対する影響が出た場合であっても、対策や共存の道を探る糸口になっていくはず。また、地域の方々にラッコを知ってもらうことも、共存を図っていく際にとっても重要なことです。当館では収集したラッコに関する資料は小

学校への出前授業などの普及活動において積極的に活用し、子供たちをはじめ地域の方々にラッコに興味を持ってもらうきっかけづくりに役立てています。



写真 4. アジアラッコの幼獣の標本



写真 5. アジアラッコの幼獣の全身骨格



写真 6. アジアラッコ幼獣の頭骨

## 令和 5 年度の受入資料

昨年度も貴重な資料を多数お寄せ頂きました。記してお礼申し上げます。

| 受入番号 | 寄贈者          | 資料名                  | 点数 |
|------|--------------|----------------------|----|
| 1342 | 大地敏夫         | 根室千島両国郷土史            | 1  |
| 1343 | 向井賢一（夜鶴堂）    | 山田缶詰所缶詰ラベル           | 1  |
| 1344 | 橋本健          | 北方4島自治体公印、択捉島地図ほか    | 20 |
| 1345 | 五十嵐稔章        | 続縄文土器、石器             | 7  |
| 1346 | 根室市役所北方領土対策課 | 海底ケーブル保守記録、地図類       | 15 |
| 1347 | 小池公子         | 小池仁郎関係写真             | 9  |
| 1348 | 猪熊樹人         | 絵葉書「吉田初三郎 根室より千島を望む」 | 1  |
| 1349 | 石田栄子         | 棹秤                   | 1  |
| 1350 | 澤井玄          | 中村貞世撮影根室港写真          | 2  |
| 1353 | 折館強          | トーサムポロ湖周辺竪穴群採集資料     | 35 |
| 1354 | 倉又良春         | 花咲線、花咲駅写真            | 6  |
| 1355 | 竹村征三         | ソビエト連邦の旗             | 21 |
| 1356 | 根室市図書館       | 根室空襲紙芝居              | 2  |

合計 121 点

## 令和 5 年度のおもな普及事業

### ★ 展示事業 ★

巡回パネル展「湿原の王国道東 in 根室」

2023/8/5 ～ 9/5 歴史と自然の資料館

日本遺産巡回サテライト展示

4/1-3/31 大地みらい信用金庫本店

6/19-7/21 大地みらい信用金庫釧路東支店

7/28-9/5 大地みらい信用金庫厚岸支店

9/22-11/7 大地みらい信用金庫札幌支店

9/22-11/7 北海道庁ロビー

### ★ 展示更新 ★

チャシ跡 3DCG 動画の制作と映像展示、三  
次元データの公開

資料三次元データの作製と公開

オホーツク文化、チャシ跡等の資料を  
三次元データ共有サイト「sketchfab」で  
公開。

### ★ 観覧会・見学会・講演会等 ★

学芸員講演会

2023/4/21

総合文化会館多目的ホール

「戦前戦後の西月ヶ岡遺跡」大久保太智

「花咲線のワシ列車事故～ワシとシカの  
行動・生態からみた対策」

外山 雅大

「弁天島 4 号住居跡の遺物とレプリカ作  
製」猪熊 樹人

「資料館ラボ Vol.13 冬の小鳥をじっく  
り観覧・足環付け調査体験しよう」

開催日 2023/12/9-10

開催場所 フィールドイン風露荘

### ★ 調査・研究等 ★

西月ヶ岡竪穴群詳細分布調査

北構保男氏寄贈資料調査・整理

市内湿原、野生生物調査

資料 3 次元モデル  
公開サイト



大地みらい信用金庫札幌支店様での展示

2024 年 7 月 印 刷 ・ 発 行

編 集 猪熊 樹人

発 行 根室市歴史と自然の資料館

〒 087-0032

北海道 根室市 花咲港 209

tel/fax : 0153-25-3661